

ロボット工学×教育で発達障害児への道
PROJECT

CybSPEED

Cyber-Physical Systems for Pedagogical Rehabilitation in Special Education

【参加期間】

2017.12.1-2021.11.30

【参加機関】

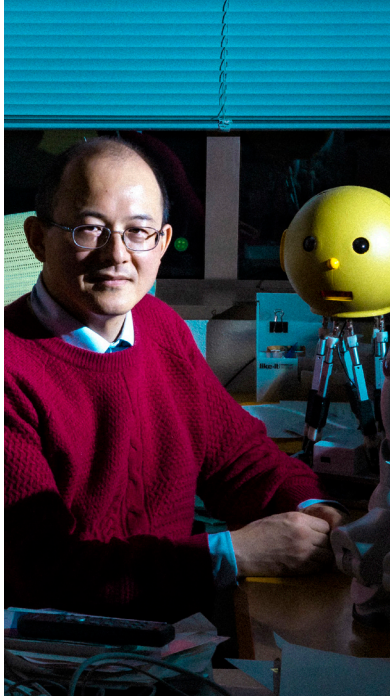
7カ国 / 11機関

スペイン、フランス、ギリシャ、ブルガリア、日本、チリ、モロッコ

ロボット工学の知識を活かし、発達障害の子どもたちへの支援法を構築する。ロボットなどのデバイスだけでなく、教育者や劇団などが教育環境を考えるほか、理学療法士や作業療法士のグループが支援のためのリソース体制づくりをする。子どもごとにゴールまでの道のりをデザインしていく。

CybSPEED

<https://cordis.europa.eu/project/id/777720>



我妻広明

九州工業大学大学院生命体工学研究科
(人間知能システム工学専攻) 准教授

Hiroaki WAGATSUMA / 1967年、山形県生まれ。県立米沢工業高卒業後、米沢NECを経て東京電機大で博士号。2000年理化学研究所。2009年から現職。

日本の研究機関に直接研究費が出なくても EU各機関とロイヤリティー契約で問題解消

私は「人間の脳の謎」を追究しています。人間の脳は、些細な電圧の変化を情報の伝達機能に変えます。同じ能力を持つコンピューターをつくらうとすれば莫大な電力が必要でしょう。人間の脳はまさにミステリーです。

その謎を追究する考えに共鳴し、共著論文もあるブルガリアの科学アカデミー・ロボット研究所の研究者から、「あなたの力が必要不可欠」と頼まれ、Horizon 2020に参加しました。実は本音を言うと、CybSPEEDがHorizon 2020採択に至るとは思っておらず、深刻に考えてなかったのが正直なところでした。

ところが、予想を覆して採択され、詳しく聞く

と「日本の研究機関には直接研究費はなく、EUへの渡航費は出せない」とのこと。困り果て学長と学内関連部署に相談しました。そう聞くと多くの日本人研究者は「Horizon 2020に参加するのはちょっと…」と及び腰になるかもしれませんが、協議を重ねて問題は解決しました。

CybSPEEDの海外研究者は、私の研究室が窓口となり受け入れます。プロジェクトが始まり約2年間で43人が日本に滞在しました。最初にCybSPEEDすべての機関と受け入れ時のロイヤリティー(対価)請求の契約を締結、学内予算の支援もあり、受け入れ体制を万全にできました。脳の謎を追究する進行中の複数の研

広いEUに
研究者ネットワークが
広がれば
日本の研究の
存在意義高まる

参加して気づいたことは？



脳のミステリーに挑戦し、ダイバーシティを社会発展の礎とする世の中を目指す

究プロジェクトと連動させ、各ミッション遂行で学内に滞在する国内外の研究者・学生も積極的に参加しています。小さな歯車が次々連結し、大きな歯車装置となり、研究が進んでいます。

今回は、ブルガリアやギリシャなど連携の経験がない国の人と関わり、文化の差異も含め、あらためて「EUは広いな」と実感しました。同時に、こうした多様性の中で議論や研究をすることが大切だと気づかされました。

研究者のネットワークを広げ、「日本にはアイツがいる」と日本の研究者名が知れ渡っていけば、日本の存在意義が高まる。Horizon 2020はその役割が期待できると思います。

interview